

では第6課の文法の説明をします。
これは第6家の文法の1から10までです。

まず最初の「～に気がつく」
ですけれども、まず Noun、名詞の時には

名詞
に気が

つく。この「気」っていうのはみんなの
ま「attention」ですよね。「つく」ってのは

「arrive」とか「attach」という意味があります。
みんなの「attention」が「attached」to

thisというので、「I notice」、「I
realize」という意味です。例えば

「漢字の間違いに気がつきました。」それから
文が来る時には「～ことに気

がつく。」この「こと」、「the fact
that」というのを使ってください。そして

ここの「こと」の前はですね、これpast
でもpresentでもいいんですけれども、

plain formを使ってください。
例えば「答えを間違えたことにえ気が

つきました」こんな使い方をします。
はい次2番ですけれどもえっと「～

ようと願う」とか「祈る」。この「と」っていうの
は、これはオプションナル。

この「と」はオプションナルです。でここは
スピーカーのhopeとかdesireなん

ですけれども、例えばですね、「早く
世界が平和になるように祈っています。」平和

になるようにもちろん「と」を入れても大丈夫

です。願っていますね。ここなんですけれど

もいつもnon-pastのplain formを
お願いします。それから「I hope」、英語

では「I hope」なんですけれども、日本語
では大抵「ている」present stateの形

を取ります。ですから「願っていま
す」っていうの「願っている」っていうのを

ここで使い
ます。それから3番なんですけれども、「～も」

それから「～ば」。この「ば」っていうのは、
これは ーえばformです。動詞の ーえば

form。例えば
これは2年生で勉強したんだと思う

んですが、る-verbの時には食べる→食べれ
ば。それから、う-verbの時には書く

書く→書けば。えラインですよ。それから
する→すれば、来る→くれば なんですけれども、

この ーえばformを使ってですね、
sometimes do ~, other times do ~ という

例えばですね、寿司が好きな人もいれば、
嫌いな人もいます。これは意味としてはです

ね全くこれと同じです。「寿司が好きな人
もいるし嫌いな人もいる。」これとこれは

全く同じ意味です。それから「この教科書は
会話も練習できれば、文化も学べます。」この

意味はですね、「この教科書は会話も練習
できるし文化も学べます。」全く同じ意味です。

次

4番。これはもういいですよ

「～なのだろうか」
話言葉では「～なんだろうか」ってのを

使いますが、これは「I wonder」の意味です。
例えば「病院に行かなくて大丈夫なんだろう

か/なのだろうか」「I wonder」という使い方です。
それから5番。こそあどシリーズですよ

こそあどシリーズの言葉です。「こんな」、「そんな」、「あんな」、
「どんな」なんですけれども、これは「kind」です。

ですから例えば「どんな問題」って言ったら
「What kind of problem」なんです

1つ注意があります。「こんな」、「そんな」、
例えば「こんな本」って言った場合。これは

Direct modificationです。「この本」これは
はダメですので気をつけてください。それ

から次。「それぞれ」
という言葉なんですけれども、これ「each」

の意味です。例えば「子供たちは
それぞれ自分の家に帰って行った。」これ

「individually」という意味がありますよね。また
Nounのモディフィケーションも

大丈夫です。例えば、「それぞれ
の国」って言った場合に「each of the country」

それからそれぞれの文化「each of
the culture」という使い方があり

ます。次、「らしい」なんですけれども、これは
もう2年生の時に勉強しましたよね。

「～らしい」ここが「It seems」という
意味なんですけれども

ちょっと文章を見ていきましょう。
「～らしい」で気をつけて欲しいのは

ですね、「らしい」なんですけれども、ここ
な-adjectiveそれからNounの時、「だ」

はドロップします。例えば「大変らしい」
「あの先生の授業は大変らしい」「大変だらしい」

じゃありません。それから「優しい人らしい」「だ」
がドロップしますから気をつけてください。

次、「～続ける」この「Verb-masu」って
書いてあります。これはverb stem

formのことです。いいですか。マス
さようならフォームです。例えば「勉強し

続ける」とか、「泣き
続ける」、「continue doing such and such」という意味です。次「ばかり」なん

なんですけれども、これ「Nothing but」
という意味なんですけど色々なパターンが

あります。多分これはクラスでまた
復習しますけれども、例えば

「コンピューターゲームばかりしている。」

「do nothing but computer game」、コンピューターゲームしか
していないという意味

です。あと、人によってはカジュアルな時な
んですけれども、「っ」を入れてですね、

「ばかり」という人もいます。例えば「食べて
ばかり。」動詞 (verb)の時には

-てformですね。例えば「遊んで
ばかりいる」とか「コーヒーを飲んで

ばかりいる」とか「コンピューターゲームを
してばかりいる」とかそんな使い方があり

ます。さて最後なんですけれども、この「真(っ)」という。これはですね

PrefixでadjectiveそれからNounの前につくんですけれども、これ

はintensifierです。例えば「真っ赤」って言う

たら、これは「赤」なんですけれども「とても赤い」という意味です。それから「真上」って言う

たら、これは「上」なんですけれども、「right above」というintensifierの

functionがあります。はいじゃあこれで以上です。